



サフラン便り

第23号 18年10月15日発行

発行:佐賀県女性薬剤師会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931

FAX:0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron>

九州山口薬学大会 女性薬協議会 報告

<九州ブロック連絡協議会>

(基調講演) 鹿児島県児童総合相談センター相談部 相談判定第一課 課長 大山盛弘先生
「こどもの心の叫びが聞こえます」

薬剤が本来の目的外で使用されている事実を目撃するものとしては、薬剤師に地域社会に住む市民としての立場からも、次世代の子育てにも大きな影響を与えかねない「子ども家庭問題」に一層の関心とご理解をお願いしたい。

保護者による不適切な養育には、しつけと称して身体に傷を負わせたり、言葉で存在感を否定したり、性的暴力・子どもに食事を与えない・入浴させず汚れや破れた衣服を着せている・学校に行かせないなどがある。保護者の度重なる不適切な対応で、「愛されていない」「必要とされていない」と受けとめた子どもは、反社会的行動・心身症・リストカット・自殺など自らを傷つける行為にはしる事がある。また、薬物乱用の結果、薬物依存症に発展することも。覚せい剤・ライターガス・睡眠薬・咳止め液・安定剤等も利用されることがある。薬剤師として専門的な支援を必要とする場合も多いので、虐待が疑われる事例に遭遇した場合、支援センターへの連絡をして欲しい。

(発表)

今、佐賀の乳幼児虐待は？(佐賀 宮地和子)

佐賀県小児保健協会において薬剤師会もそのメンバーです。小児に関してのあらゆる問題提起と解決に薬剤師が必要とされているのではないのでしょうか。薬局は患者さんにとってお悩み相談窓口として一番地域に密接な存在であり、薬剤師は、虐待や問題事例を見つける立場にあります。「早く治ってよ。お金がかかるから」「コンビニ食のみの非栄養管理による肥満児」「外傷が不自然な状況」などいろいろあると思います。虐待が疑われ早急に保護が必要な時は警察署へ連絡。相談事例の場合は佐賀中央児童相談所などへ橋渡しをしていきたいものです。

発達プロセスと心の失調について(熊本 羽山悦子先生)

聞き分けが良く、いい子と言われる子どもに、母性愛剥奪で母の愛情を受けることをあきらめた子どもがいるそうです。また、社会的には全く問題にならない小さな精神的虐待はどの家庭にもあるが、その芽が大きくなって我が子をどう愛して良いか分からず虐待をしてしまう大人に育つ可能性があります。「思いっきり抱っこ、過保護で育児」とあるように1歳までは母性愛に満ちた安心できる環境で過ごすことが重要です。

子ども虐待への意識調査と私たちにできることから・・・を考える(鹿児島 宮脇仁美先生)

鹿児島では、医療・福祉・行政が連携した「子ども虐待防止ネットワーク会議」の設置があります。取り組みの難しいテーマであるが、医療人という立場から少し意識を持っていただきたいと願い「Stop 虐待」というポスターを作製し各事業所に配布しました。日常業務で虐待の状況に出会うのはまれなことですが、医療人としてこの事にどう対応するかが問われています。

<診療ガイドライン薬剤コース 各県の取り組み>

- (鹿児島)・18年度 受講者数:会員(130名)非会員(5名)
 - ・16年度から始めている。メーカーの講演を主にしてきた。
 - ・医師の講演をこれから増やしていきたい。
- (熊本)・県の生涯教育を女性薬部会で担当している。(月1回)
 - ・ガイドラインまでは、手が回ってない現状
- (大分)・ガイドラインの募集人数が少ない為、スクーリングは行っていない。
 - ・もっと安価で配布できないだろうか?
- (長崎)・諸説の事情により、県薬剤師会から独立して、ガイドライン受講者が継続できるように、日本女性薬剤師会との窓口として、長崎女性薬剤師会を立ち上げた。アンケートをとって、受講者の要望に答えるように活動している。
- (山口)・今年度初めて実施した。(会員28名・非会員18名)
 - ・会員と非会員の受講料の差別化をした。
- (沖縄)・今年度初めて参加。申し込み案内が遅れたが、県薬会員に広報したところ、予想を上回る70名あまりの参加があった。
 - ・スクーリングは医師に頼んだ。好評であったとのこと。
- (佐賀)・九州薬学会報に論文投稿した。
 - ・キッズルームはスクーリングにおいて毎回開設している。
 - ・受講者の希望により、医師の講演を3題にした。
 - ・Q&A集を作成。2集目発行。



九州山口薬学大会 特別講演:菅谷公伸先生(セントラルフロリダ大学 教授)

Alzheimer の治療薬最先端基礎的分野でした。embryo stem cell を年取った学習能力がおちたラットに移植すると学習能力が上がる。immuno responce の問題はありますが、またアルツハイマーの原因であるアミロイド前駆物質は、幹細胞の遊走と分化に必要であることから、現在は脳内のアミロイド前駆物質の濃度を下げる薬物の開発と幹細胞による治療の2面からアルツハイマー治療の研究に取り組んでいる。突発性難聴も有毛細胞の再生ができれば治癒可能ということです。「もうあきらめました。」という患者さんの期待に満ちた顔が思い浮かびました。スライドが芸術的でとてもきれいでした。また基礎医学用語、英単語の勉強になりました。ご参考まで

stem cell 幹細胞 physiological 生理的な electoric physiology 電気生理学 migrate 移住する compound 化合物 複合体 molecular biological 分子生物学 fluouescence 蛍光 dopaminagic cell ドパミン作動性細胞 cholinergic cell コリン作動性細胞 hippocampus 海馬 cerebral cortex 大脳皮質 hair cell 有毛細胞 fetus 9週以後の胎児 embryo 8週末満の胎児 gene 遺伝子 bone marrow 骨髄 suspension 懸濁液

ちょっと一言

九山大会は、台風の影響によるハプニングの連続で担当の先生方のご苦労は大変だったと思います。それを臨機応変に対応される力強さに感動しました。女薬は今回、小児について学びました。子どもの気持ちは自分が好かれているか、嫌われているかということに、本能的にとっても敏感ですね。家族の感情の中で自分の立場をよく見極めていくな、と再確認しました。親の精神状態が、いかに子どもに反応するかと想う時、薬剤師の患者さんに対応する心配りにも、もう一つ大切なものを加えていきたいなと思いました。(島田)

< 18年度前期スクーリング講習会アンケートより >

- ・ 統合失調症について処方細かいいところまで説明があり良かった。
- ・ 肝疾患のメタボリックシンドロームで具体的に何を食えると何加りなどわかり易かった。
- ・ 肝疾患で写真や図が多く、字も大きくてわかり易かった。
- ・ 余談・雑学を交えて話してもらって記憶に残り易く理解しやすし。
- ・ 統合失調症で言葉文字だけではイメージしにくい症状を身体を使ったりしてわかり易い表現で説明してもらって良かった。患者さんの苦しい気持ちが理解でき接し方に少しでも役立てられればと思った。
- ・ 肝疾患で食生活運動を家族でも見直したいと思った。B型肝炎の症例が印象的。地域的歴史的背景を聞くと今までと見方が変わった。
- ・ 冷房が効きすぎて寒かった。お茶お菓子の接待が有難かった。
- ・ 肝疾患の江口Dr. のテンポの良い説明がわかり易かった。
- ・ 統合失調症の島田Dr. のわかり易く専門用語も説明してもらいよかった。



抗コリンエステラーゼ剤による下痢 T13.1.18生

女性

併用薬: パイロリッ・フェミア・マズリンS(朝食後)

サミン・デパス(0.5)(毎食後)

処方 **ウブレチド3T 3x** 変更後 **1.5T 3x**

ウブレチド開始後下痢が始まる。使用初期において、下痢の頻度が多い。(5%)下痢の副作用がコリン作動性クリナーゼの前駆症状として出ることがあるため、注意が必要。またウブレチドはアセチルコリンエステラーゼ阻害剤を指標とした半減期が39.3時間と長いいため、早めの対応が必要となることもある。排尿状態による服薬量の変動は不可(メーカー問い合わせ済み)

<お知らせ>

10月22日(日)午前10時~午後4時まで

「薬と健康の週間」「くすりのふるさと佐賀」

(薬に立つコーナー)

健康講演会「病気にならない生き方」・薬に立つ講演会

「市販薬購入の時に注意することは？」

「佐賀県の医薬品」の展示・薬のなんでも相談

みぢかな薬草茶試飲会・献血バスによる献血

ご協力お願い

先月の会報誌に同封しました「アバンセ調査研究のアンケート」できるだけ多くいただき調査分析したいと思います。まだお出しでない方は是非ご協力よろしくお願いたします。